

らびうプラス

他人に推薦したい本を持ち寄って書評を発表し合い、最も読みたくなった本を選ぶ「ビブリオバトル」が教育現場に広がっている。作品の魅力や表現力などを分かりやすく伝えようとするのが読解力や表現力などの向上につながる。東京など積極的に導入。各地で高校生向けの大会も開かれ、にぎわいをみせている。

「皆さんはこの作家の作品にどんな印象を抱きますか」「僕はこの本を読もうちに、どんどん引き込まれていきました」

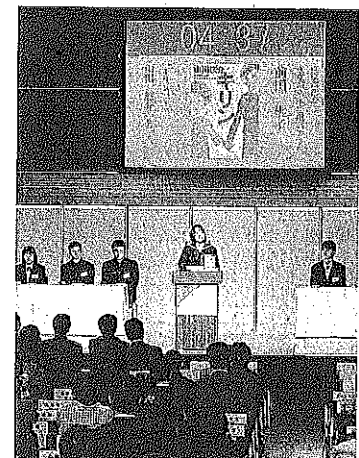
11月23日、東京・秋葉原のホールに集まった約500人を前に、高校生たちが身ぶり手ぶりを交えて推薦本の魅力を語った。都が今年初めて開き、首都圏の高校生らが参加したビブリオバトルの大会だ。

「ビブリオ」は書物を意味するラテン語由来の言葉。発表者が読んで面白いと感じ「他人に推薦したい」と思った本を持ち寄り、1人5分間で書評を発表する。観客とのやり取りを経て、対戦相手と観客が一番読みたいと感じた「チャンプ本」を多数決で決める。

大会には8月の予選を突破した高校生約30人が参加。古典から小説、図鑑まで幅広い分野の本が登場するなか、私立成城高校(東京・新宿)1年の宮下凌輔

この本読んで「自分の言葉で魅力語る

ビブリオバトル 表現力を育てる



教育の現場で導入が進む(東京都千代田区での「高校生書評合戦首都大会2013」)

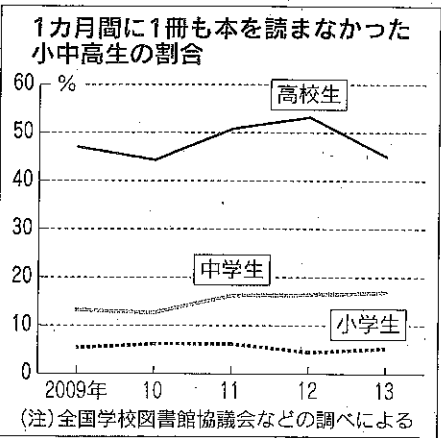
さん(16)が紹介したゲーテの「ファウスト」がチャンプ本を獲得した。

宮下さんが伝えなかったのは「ゲーテは難しいというイメージを覆したい」との思い。様々な出版社の「ファウスト」を読み比べた経験を交えた熱っぽい語り方が、多くの支持を集めた。

都教委は子供の「活字離れ」を食い止めようと、2012年度から、各高校でビブリオバトルへの取り組みを推奨。今大会の予選には全都立高の参加を促したほか、国立、私立を含め約8400人が校内で発表を体験した。担当者は「本の内容を自分の言葉にして人に伝えることで、読解力や論理的思考力、表現力を養える」という。

出場した都立小松川高(東京・江戸川)2年の前田桃子さん(17)は「本の特徴を意識して読むようになり、授業での発表がうまくできたり、他人の発言の意図を理解できたりするようになった」と実感する。

兵庫東教委も県立図書館の担当者も県立校に派遣して、ビブリオバトルを紹介する。県立御影高(神戸市)は12年度から、放課後に校内の図書室でビブリオバトルを開催。「ゲーム感覚で気軽に参加してもらい、読書離れを食い止めるのが狙い」(県教委)。県教委は12月下旬、県内予選を勝ち



「1カ月に1冊も読まず」高校生では45%

全国学校図書館協議会(東京)などが全国の小中高生約1万1千人に実施した調査で、今年5月の1カ月間に「本を1冊も読まなかった」と答えた高校生は45%を占めた。

小学生(5.3%)、中学生(16.9%)と学年が上がるにつれ、読書離れが進む傾向が鮮明に

学年上がるほど本離れ

なっている。高校生が1カ月間に読んだ本の平均は1.7冊。2012年比で0.1冊増にとどまる。

同協議会は「中高生は部活や受験勉強で忙しいだけでなく、携帯電話などへの関心も強い。幼い頃から読書の楽しさを伝え、習慣付けをさせることが大切だ」としている。

高校生5分に思いこめる 授業に導入 図書館が活況

緑を囲んで 冬を楽しむ



ロバート・バリ作、光吉夏弥訳、大日本図書、1365円

「おおきいツリー ちいさいツリー」

抜いた中高生向けの大会を初めて開く予定だ。

12年度から全クラスの国語の授業に取り入れられているのは、京都府向日市の市立西ノ岡中学校。夏休みや冬休み明けの授業で実施する。生徒が取り上げた本を図書室で積極的に購入したところ、貸し出し冊数が急増。三輪秀文校長は「朝読書に熱心に取り組む生徒が増えて授業が落ち着き、他の科目の発表時の表現力も伸びている」と成果を話す。

07年にビブリオバトルを考案した立命館大の谷口忠大准教授は「自分の言葉で発表することは読書感想文とは違う。勝ち負けばかりを目的にせず、読書を楽しむみながら知識を広げることが意識して取り組んでほしい」と期待している。

増える。勝つ負けばかりを目的にせず、読書を楽しむみながら知識を広げることが意識して取り組んでほしい」と期待している。

ます。実をいうと、マンション住まいの我が家では、子供たちが小さかったころ、ベランダから取り込んだゴムの木をツリーにして飾っていました。へんなツリーですが、プラスチックの木より、生きた緑の方がいいじゃない、とうわけです。寒い季節に、やがて来る春に思いをはせる緑。大きくても小さくてもツリーを囲んで冬を楽しく過ごしましょう。

(浦安市立中央図書館司書 大宮祐子)

こころの1冊

街角のあちらこちらでツリーを目にする季節になりました。ウィロビーさんのお屋敷にも、今まで見たこともないほど大きなツリーが届きます。ところが、大きすぎて大広間に入りません。木の先が切られ、小間使いのアデレートが、それをもらいました。でも、彼女の小さな部屋には大きすぎたので、さきっぱを切ります。それを手に入れた庭師のチムも、先っぱを切り取り、次はくまが、そしてきつね、うさぎ、最後にはねずみの家族までがツリーを手に入れ